

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成23年10月13日 (2011.10.13)

【公表番号】特表2003-511520(P2003-511520A)

【公表日】平成15年3月25日 (2003.3.25)

【出願番号】特願2001-530381(P2001-530381)

【国際特許分類】

C 0 8 F 2/44 (2006.01)

C 0 8 F 2/24 (2006.01)

C 0 8 F 220/04 (2006.01)

C 0 8 F 222/02 (2006.01)

C 0 8 F 265/02 (2006.01)

C 0 8 F 267/02 (2006.01)

C 0 8 F 290/06 (2006.01)

C 0 8 K 5/17 (2006.01)

C 0 8 L 33/00 (2006.01)

C 0 8 L 35/00 (2006.01)

C 0 8 L 51/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 2/44 C

C 0 8 F 2/24 Z

C 0 8 F 220/04

C 0 8 F 222/02

C 0 8 F 265/02

C 0 8 F 267/02

C 0 8 F 290/06

C 0 8 K 5/17

C 0 8 L 33/00

C 0 8 L 35/00

C 0 8 L 51/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年8月26日 (2011.8.26)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

50～99.5質量%の、少なくとも1種類のエチレン系不飽和モノおよび/またはジカルボン酸と、

0.5～50質量%の、ヒドロキシシル基を少なくとも1つ有するアミンとエチレン系不飽和モノカルボン酸とのエステル、ならびにヒドロキシシル基を少なくとも1つ有するアミンとエチレン系不飽和ジカルボン酸とのモノエステルおよびジエステルから選択される少なくとも1種類のエチレン系不飽和化合物と、

最大20質量%の少なくとも1種類のさらに別のモノマーと、

から合成される付加ポリマー A 2 の存在下でのフリーラジカル乳化重合によって得ることができる少なくとも1種類の付加ポリマー A 1 の分散ポリマー粒子を含み、

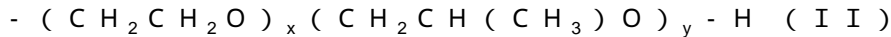
前記少なくとも１種のエチレン系不飽和化合物を得るために使用される、前記ヒドロキシル基を少なくとも１つ有するアミンは、何れも、式



(式中、

R^c が、 $C_6 \sim C_{22}$ アルキル、 $C_6 \sim C_{22}$ アルケニル、アリール- $C_6 \sim C_{22}$ アルキル、またはアリール- $C_6 \sim C_{22}$ アルケニルであり、前記アルケニル基は１、２、または３個の隣接しない二重結合を有することができ、

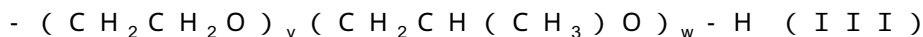
R^a が、ヒドロキシ- $C_1 \sim C_6$ アルキル、または式(I I)



の基であり、ここで

式 I I のアルキレンオキシド単位の順序は任意であり、 x と y は相互に独立して、 $0 \sim 100$ の整数であり、且つ x と y の和は > 1 であり、

R^b は、水素、 $C_1 \sim C_{22}$ アルキル、ヒドロキシ- $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_6 \sim C_{22}$ アルケニル、アリール- $C_6 \sim C_{22}$ アルキル、アリール- $C_6 \sim C_{22}$ アルケニル、または $C_5 \sim C_8$ シクロアルキル(前記アルケニル基は１、２、または３個の隣接しない二重結合を有することができる)であるか、あるいは R^b は式 I I I



の基であり、ここで

式 I I I 中のアルキレンオキシド単位の順序は任意であり、 v と w は相互に独立して、 $0 \sim 100$ の整数である)で表されるアミン、およびその混合物から選択される水性ポリマー分散液。

【請求項 2】

前記ポリマー A 2 が、エチレン系不飽和モノおよび/またはジカルボン酸として、 $C_3 \sim C_{10}$ モノカルボン酸および $C_4 \sim C_8$ ジカルボン酸から選択される少なくとも１種類の化合物を含む請求項 1 に記載の分散液。

【請求項 3】

ポリマー A 1 とポリマー A 2 との固形分を基準にした質量比が、 $7 : 1 \sim 1 : 7$ の範囲内である請求項 1 又は 2 に記載の分散液。

【請求項 4】

前記ポリマー A 2 を基準にして最大 50 質量%の、請求項 1 に記載の式 $R^c N R^a R^b$ で表される少なくとも１種類のアミンをさらに含む請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の分散液。

【請求項 5】

ヒドロキシル基を少なくとも２つ有する少なくとも１種類のアミンまたはアミド架橋剤をさらに含む請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の分散液。

【請求項 6】

少なくとも１種類の反応促進剤をさらに含む請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の分散液。

【請求項 7】

前記反応促進剤が、リン化合物から選択される請求項 6 に記載の分散液。

【請求項 8】

前記 A 1 ポリマーが、ポリマーに使用されるモノマーの全質量に対して 80 ～ 100 質量%の、少なくとも１種類のエチレン系不飽和主モノマーと、ポリマーに使用されるモノマーの全質量に対して最大 20 質量%の、少なくとも１種類のエチレン系不飽和コモノマーと、から合成される請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の分散液。

【請求項 9】

70 ～ 50 質量%のポリマー A 1 と、30 ～ 50 質量%のポリマー A 2 と、0 ～ 10 質量%の界面活性アルコキシル化アルキルアミンと、0 ～ 20 質量%のヒドロキシル含有架橋剤と、0 ～ 5 質量%の反応促進剤と、を含む請求項 1 ～ 8 のいずれかに記載の分散液。

【請求項 10】

少なくとも１種類のエチレン系不飽和モノマーのフリーラジカル乳化重合によってポリ

マー A 1 が合成され、且つ前記重合が少なくとも 1 種類のポリマー A 2 の存在下で実施される請求項 1 から 9 のいずれかに記載の水性ポリマー分散液の製造方法。

【請求項 1 1】

請求項 1 から 9 のいずれかに記載の水性ポリマー分散液で基材を処理した後に硬化させることによって得ることができる接合基材。

【請求項 1 2】

成形品の形態である請求項 1 1 に記載の基材。

【請求項 1 3】

基材用のバインダーとしての請求項 1 から 9 のいずれかに記載の水性ポリマー分散液の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 2】

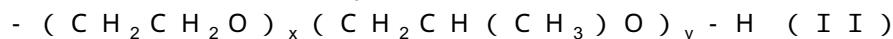
驚くべきことに、本発明者らは、50～99.5質量%の、少なくとも1種類のエチレン系不飽和モノおよび/またはジカルボン酸と、0.5～50質量%の、ヒドロキシル基を少なくとも1つ有するアミンと、エチレン系不飽和モノカルボン酸とのエステル、ならびにヒドロキシル基を少なくとも1つ有するアミンと、エチレン系不飽和ジカルボン酸とのモノエステルおよびジエステルから選択される少なくとも1種類のエチレン系不飽和化合物と、最大20質量%の少なくとも1種類のさらに別のモノマーと、から合成される付加ポリマー A 2 の存在下でのフリーラジカル乳化重合によって得ることができる少なくとも1種類の付加ポリマー A 1 の分散ポリマー粒子を含み、

上記少なくとも1種類のエチレン系不飽和化合物を得るために使用される、上記ヒドロキシル基を少なくとも1つ有するアミンは何れも、式



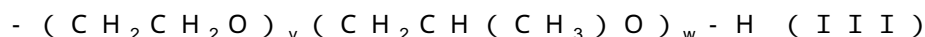
(式中、 R^c が、 $C_6 \sim C_{22}$ アルキル、 $C_6 \sim C_{22}$ アルケニル、アリール - $C_6 \sim C_{22}$ アルキル、またはアリール - $C_6 \sim C_{22}$ アルケニルであり、前記アルケニル基は1、2、または3個の隣接しない二重結合を有することができ、

R^a が、ヒドロキシ - $C_1 \sim C_6$ アルキル、または式(I I)



の基であり、ここで式 I I のアルキレンオキシド単位の順序は任意であり、 x と y は相互に独立して、0～100の整数であり、且つ x と y の和は >1 であり、

R^b は、水素、 $C_1 \sim C_{22}$ アルキル、ヒドロキシ - $C_1 \sim C_6$ アルキル、 $C_6 \sim C_{22}$ アルケニル、アリール - $C_6 \sim C_{22}$ アルキル、アリール - $C_6 \sim C_{22}$ アルケニル、または $C_5 \sim C_8$ シクロアルキル(前記アルケニル基は1、2、または3個の隣接しない二重結合を有することができる)であるか、あるいは R^b は式 I I I



の基であり、ここで式 I I I 中のアルキレンオキシド単位の順序は任意であり、 v と w は相互に独立して、0～100の整数である)で表されるアミン、およびその混合物から選択される水性ポリマー分散液によってこれらの目的が実現されることを発見した。